

第5回伊賀市総合計画審議会 議事概要

開催日時	2024（令和6）年11月14日（木） 14:00～16:45
開催場所	本庁舎 4階 庁議室
出席委員	岩崎 恭彦 （【1号委員】三重大学人文学部） 久 隆浩 （【1号委員】近畿大学総合社会学部） オチャンテ 村井 ロサ メルセデス（【1号委員】桃山学院教育大学人間教育学部） 片桐 新之介（【1号委員】合同会社C.SSS コーポレーション） 朴 恵淑 （【1号委員】三重県地球温暖化防止活動推進センター） 奥井 公子 （【2号委員】公募委員） 成底 正好 （【2号委員】公募委員） 山本 いずみ（【2号委員】公募委員） 高井 篤史 （【3号委員】伊賀市消防団） 奥西 利江 （【3号委員】社会福祉法人維雅幸育会） 荒井 恵美子（【3号委員】男女共同参画ネットワーク会議） 船見 くみ子（【3号委員】公益財団法人伊賀市文化都市協会） 増田 政俊 （【3号委員】伊賀市地域公共交通活性化再生協議会） 加納 圭子 （【4号委員】 — ）
欠席委員	
議事日程	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）前回の振り返り ・人口ビジョン、第1章 （2）分野別施策（成果指標）について 4 その他 ・こども・若者ワークショップ等について（こども未来課）
議事概要	1 開会 ★会議成立の確認 （事務局）：定刻となりましたので、ただいまから、第5回伊賀市総合計画審議会を始めさせていただきます。 ★会議及び議事録公開の確認 （事務局）：会議の公開ですが、「伊賀市審議会等の会議の公開に関する要綱」第3条により、会議を公開し、会議の傍聴を認めておりますので、報道関係者の撮影等について、ご了解、ご理解をお願いいたします。 また、会議録についても公開させていただきますので、ご了解よろし

くお願いいたします。

★資料の確認

(事務局)：資料につきましては、メールにて送付させていただいていますが、本日、印刷したものを配布させていただきました。

なお、委員の皆様からいただいた個々の意見につきましては、この審議会でもう一度ご意見と併せて、所管課へ考え方について投げかけをする予定です。

★会議成立の確認

(事務局)：本日の会議の成立でございますが、「伊賀市総合計画審議会条例」第6条第2項に基づき、委員の半数以上の出席をいただいておりますので、会議は成立しております。

(事務局)：― 寺村委員の辞職に関する報告 ―

2 あいさつ

(事務局)：企画振興部長から挨拶があります。

(企画振興部長)：改めまして、伊賀市では、11月10日に市長と市議会議員の同日選挙がございました。

選挙の結果、新しい市長が11月21日に初登庁します。これからの伊賀市のまちづくりを進めていく計画を今作っておりますが、今までの審議をなぞらえながら、市長の意向を確認し、これからもご審議いただきたいと思います。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

＜会長＞：皆様こんにちは。先ほど部長からもご案内ありましたように、新しい市長を迎えることになりました。皆様にはこれまで通り活発なご審議をいただきますようお願いいたします。

事項に沿って議事を進めて参ります。まず前回の振り返りから始めたいと思います。事務局から説明をお願いします。

― 事務局 議事(1)「前回の振り返り」、資料1「伊賀市人口ビジョン(案)」、資料1-1「地域ごとの人口動向」、資料1-2「円グラフの例」、資料2「第1章はじめに」説明 ―

＜会長＞：改めて、ただいまの資料の総合計画での位置付けを確認させていただくと、資料１「伊賀市人口ビジョン（案）」は、総合計画の別冊になるものです。

資料２「第１章はじめに」は、総合計画の第１章になり、前回皆様にご審議をいただき、修正しております。修正箇所のうち、グラフについては、棒グラフではなく円グラフにしてほしいとの要望がありましたので、資料１－２「円グラフの例」にてお示ししております。

資料１－１「地域ごとの人口動向」は、各地区でまちづくり計画を策定していただく際の資料、或いは、総合計画について各住民自治協議会に対して諮問する際に、対話の１つの材料として使われるものです。

資料２について、前回ご審議いただいたことが修正されているかご確認いただき、ご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

＜委員＞：前回の議題では無かったと思いますが、人口ビジョンをどのように進めるかが漠然としていると思います。例えば、人口動向の調査について、地図に落とし込むこともできると思います。

それともう一つ、資料１「伊賀市人口ビジョン（案）」の２０ページ、「通勤・通学流動」について、子どもたちが市外へ出て行っているという傾向や、働く方々のミスマッチなどがあるため、その地域のどのあたりに人が来ているのか、原因は何なのかということが分かれば、人口流出の歯止めにつながるのではないのでしょうか。

（事務局）：比較的まちの中心である上野南部の人口の状況と、島ヶ原の人口の状況は似ているということに気づきます。同じ青山でも、桐ヶ丘と高尾では全く違うということがあるので、きめ細やかに見たほうが、地域の課題は分かりやすいと思います。３９の地域ごとの人口の特色をマップに落とし込み、傾向を見るということは一度検討してみたいと思います。

資料１「伊賀市人口ビジョン（案）」の２０ページ、「通勤・通学流動」については、国勢調査で５年に１回確認できるものですので、細かい傾向まで調べることは分かりません。

伊賀市には高等教育機関がないので、近隣府県へ学生が流れていることが分かります。一方で、工場が多いため、市外から働きに来られる方、特に名張市さんから伊賀市へ来てくれている方が多いという状況が見て取れます。

＜会長＞：資料の１－１「地域ごとの人口動向」については合併後初めて、住民自治協議会ごとの人口がどうなっているかという整理をしていただきました。

これをどう分析し、総合計画に反映させていくかはこれから検討してい

くことになります。またご検討いただき、それが総合計画にどう反映され
そうかということをご報告いただければと思います。

他にご意見いかがでしょうか。

＜委員＞：資料２「第１章はじめに」に関して、１ページでは「誰一人取り残さない
持続可能な伊賀市」、32 ページでは「だれ一人取り残されることのないまち」
となっていますので、同じ文言に整理した方がよいと思います。

また、計画が 2030 年を見据えている場合、SDGs に特化するという形でも
よいと思います。次の 10 年 20 年のことも見据えるのであれば、カーボン
ニュートラルについて書いた方がよいのかと思います。

（事務局）：SDGs について、資料２の１ページの、「誰一人取り残さない」と書いたの
は、これからの計画ではなく、現行の計画で、これをテーマにしてやって
きたということなので、表記はこのままになります。

32 ページでの表記ですが、庁内でもどうしていくかを議論しているところ
で、「誰一人取り残さない」のほかに、「誰一人取り残されない」とする
べきだという意見も出てきています。

＜委員＞：上から目線ではないかということなど、色々なことを考えた上での表現で
あるならば、何も申し分はありませんが、実際に読んでみると分かりにく
いと思います。

（事務局）：ありがとうございます。ご意見いただいたことも踏まえ、庁内でも整理を
させていただきます。

資料２の２ページに今の計画のイメージを載せていまして、一般的に
総合計画には、基本構想と基本計画、毎年度の実施計画と３つに分けてい
るところが多いですが、伊賀市は基本構想と基本計画の２層で、行政経営
報告書で施策シートの進行管理をするという形で進めてきました。

総合計画は市長の任期に合わせた４年間の計画ですが、４年先だけを見
据えるのではなく、10 年、15 年先を見ていくような作り方とすることを
前提とし、SDGs が 2030 年の達成を目標にしているということと、カーボ
ンニュートラルがもう少し先を目標にしているということを考慮して整
理をしていきたいと思います。

＜委員＞：資料の１－１「地域ごとの人口動向」について、39 の地域はいくつかの類
型で分けられると思います。その類型ごとに、地域特性や抱えている地域
課題が共通していると思いますので、地域ごとの特徴で類型化していき、

分野ごとの施策へつなげていくと分かりやすくなると思います。

ニュータウン部は 40 年 50 年経ってくると、高齢化を迎え、同じような課題が出てきます。それは青山だけではなく、旧上野市でも同じような課題が出てくると思います。

上野の中心部と島ヶ原では一見全然違うように思えますが、人口動態や、抱えている課題がよく似ています。なぜ似ているのかということをもう少し分析していただきたいと思います。

都市計画や土地利用の観点から見ると、おそらく新しい住宅が供給されておらず、新しい方々が入らないので高齢化や転出が進み、人口が減少しているというところが、上野の中心部と島ヶ原が同じように見えている要因ではないかと思いますので、そのあたりの分析をしていただくとよいかと思います。

＜会長＞：事項の 2 番目、分野別施策（成果指標）について、事務局から説明をお願いします。

— 事務局（２）「分野別施策（成果指標）について」説明 —

＜会長＞：今日は施策照会シートを中心に、各事業、施策を評価する上で適切な指標になっているかどうかという観点からご検討いただければと思います。

施策照会シートは、それぞれの具体的な取り組みが記載してあります。

「成果指標」は、目的に向けて手段がしっかりと機能しているか、具体的な取り組みがしっかりと進行しているのかを測っていただくための指標です。皆様からご意見をいただきたいと思います。

＜委員＞：施策照会シートの 4－4「公共交通」に関して、指標の中に、まちづくりアンケートのような大きな括りではなく、目標意識を持てるような指標があれば、目標に向けて施策の展開もできるのではないかと思います。

＜会長＞：行政としての施策がしっかりと展開できているのかを測るものが成果指標で、市民の目から見て施策がどう映っているのかを見ていただくものがまちづくりアンケートの満足度ですので、市の施策がしっかりと展開できているかどうかを評価する指標として満足度を使うことは適切かどうか疑問に思います。

（事務局）：施策全体の指標を置きづらいため、今までは参画度と満足度を施策全体の指標にしてきたという経緯があります。

基本事業のキーワード「交通デザイン」の部分での指標の考えとしては、交通デザインがバスも鉄道も全体をうまくデザインするためのものなので、全体を通じた満足度を指標にしたいという思いがあると思います。今の意見を踏まえてもう一度、成果指標がふさわしいか検討します。

＜委員＞：４－４「公共交通」の「交通デザイン」のところに、MaaSのようなキーワードを入れるべきではないかと思います。

他の自治体の成果指標では、高齢者が外出し、人と交流し、老化防止に励むといったことも検討されています。「交通デザイン」と大きく言ってしまうと、満足度のような指標しかなくなってしまうと思います。「交通デザイン」というより、デジタル技術を活用し、人々がよりスムーズに移動できる仕組みを考えていくことをテーマとするべきだと思います。その指標としては、MaaSに関するワークショップの開催数などがよいと思います。

今回、「交通デザイン」というところで、総合的な交通ネットワークを形成しますと言っても、形成のためにどういった議論をして、何をしていくかというところが、まだ落とし込めていない段階かと思いますので、しっかりと公共交通ネットワークを形成していくための会議の開催数などを決めた上で、成果指標を考えた方がよいのではないかと思います。

（事務局）：原則として会議の回数を指標にすることは好ましくありませんが、場合によってそういった指標もありだということを言ってくれたかと思います。一度検討します。

課題のところにはMaaSのことも書いてはいますが、具体的な取り組みについては、これからの話なので書きづらかったのかと思います。

＜会長＞：この指標は10年後のめざす姿として設定しているのですか。

（事務局）：4年後です。

＜会長＞：指標は4年なので、それを1年刻みで見てくということですね。今ご指摘があったところは10年後ではなく4年後ということで、プランニングするための会議をしっかりと重ねていく段階だということで、そこを指標にされてはどうかというご提案でした。重要だと思いますので、担当部局に投げかけていただければと思います。

（事務局）：仕組みを構築するような基本事業については、ふさわしい成果指標が難しいという傾向があります。

＜委員＞：交通デザインですので、公共交通のネットワークについて測らなければなりません。

乗り換えがスムーズにできているかどうかということ言えば、伊賀鉄道が交通系 IC カード使えるようになりました。交通系 IC カードは、複数の交通機関で使っていますので、そこからデータ提供していただき、スムーズに乗り換えできている方々がどれだけ増えているのかなど、指標にすることは可能性としてあると思います。

＜委員＞：自動運転に関しての実証運行を、市部駅で行うことになりましたが、個人的には、実証運行の後に、市役所と四十九駅との運転などを実現して欲しいなという思いがあります。会議の開催数を指標とすることで前向きに進めることができるかと思います。

＜委員＞：１－３「環境」と、２－６「上下水道」について、定量的にすでに数値が出ている１－３「環境」を見てみますと、事業化件数が１件というのは、毎年１件ということなのか４年間で１件ということなのか、どちらでしょうか。また、目標の数値が少ないのではないかと思うところが１点です。

もう１点が、上下水道のところで、技術職員を毎年１人ずつ増やしていくという目標値が 85.0%、87.0%、100%になっていますが、これはすでに上下水道の部局で目標を立てているものをここに書いているのでしょうか。

＜会長＞：そういったご質問もあるかと思いますが、担当課に確認を取っていただいてまた次回お答えいただくことにしましょう。

他にご意見かがでしょうか。

＜委員＞：震災が起こった際、水道インフラが使えなかった場合、伊賀市に湧き水がどこにあるのかが分かればありがたいです。せっきくの地域資源なので、万が一の時に使えたら良いと思います。

（事務局）：災害時の水道インフラに関して、水道管でいえば耐震化ができているかできていないかが重要になります。

＜会長＞：事業に関してのご提案だと思いますので、担当課の方に、こういうご意見あったということを伝えていただいて、ご検討いただければと思います。

＜委員＞：1年だけの指標なのか、もっと先を目指すのかが分かりません。

（事務局）：4年間のことを書きますが、毎年1件ずつで4件にするのか、それとも4年かけて1件なのか、もう一度確認します。

＜委員＞：2－5「廃棄物」の「ごみの資源化」に関して、「ごみ分別アプリの登録数」が指標になっていますが、ここを、アプリ登録数ではなく、資源化できたゴミの量が指標になるべきかと思います。

（事務局）：本来はそうだと思います。この基本事業を達成するために適している指標かどうか一度確認したいと思います。

＜会長＞：空き家バンクも同じですね。今は登録件数が指標になっていますが、成立した数の方がよいかと思います。

＜委員＞：2－6「上下水道」で、現計画の成果指標では「地震に強い水道管路延長の割合」でしたが、分かりづらいということで、有収率にさせていただいたと思います。4年後の有収率の目標値85%に向け、所管課が取り組んでいくということだと思いますが、現状の数値も示していただくと分かりやすいと思います。

また、南海トラフ巨大地震が想定されている中で、インフラの危険な部分が見える化されていれば、市民も、水道水が止まるかもしれないという危機感を持ち、普段から対策ができると思います。

（事務局）：有収率に関して、令和4年度の有収率は80.8%です。

＜委員＞：石垣島では、災害時にフェイスブックを立ち上げ、気づいた人が情報を共有するという仕組みがあり、広く活用されています。

2－2「消防・救急」の指標に関して、民間の方でAEDの講習を受けられている方が多いと思います。講習を受けられた方々に、例えば「伊賀守る隊」などの名称を付けると、話題性も出ますし、伊賀市の取り組みも広まり、講習の募集率も高まると思います。災害時には、意識の高揚が図られ、安全安心のまちづくりに繋がるとと思います。

＜委員＞：4－2「住環境」で、耐震診断を受けた戸数が指標になっています。現在住んでいる住宅の状況がどうなっているかということに関心を持ってもらうため、無料で耐震診断を行うことは重要なことですが、診断を受けて

	耐震化した割合を示してもらえるとよいのではないかと思います。 ＜委員＞：耐震化率や空き家の話は、おそらく住生活基本計画の中でも取り上げられていると思います。他の分野でもその分野別のマスタープランがあって、そこで目標値を作っていると思います。全てにわたって分野別マスタープランとの整合性を取っていただければと思います。 （事務局）：それぞれの計画を作るたびに指標を変えていると統一感がなく、進行管理をするにも大変になってきます。 各部局には、関連計画を意識しながら、そこで設定をしている数値との整合性も確認するよう伝えます。 ＜委員＞：土地利用のプランについて、制限がある中で、39の住民自治協議会で、人口をどこに誘導していくかというシミュレーションもあると思うので、計画においても、精査されているのかが疑問です。 （事務局）：他の計画と総合計画では、策定期間に差があります。そのため、総合計画を策定した後は、新しい総合計画をもとに関連計画の見直しを行います。また、総合計画を策定する際は、既存の関連計画の考え方をベースとします。 ＜委員＞：2－3「交通安全・防犯」ですが、交通事故件数と刑法犯認知件数は載っていますが、啓発に関する指標が載っていません。未然防止をするような指標はないのでしょうか。 （事務局）：2－3「交通安全・防犯」を見ていただくと、「交通安全」のところで啓発活動に取り組むということが書かれています。事務事業で、もう少し細かい活動指標で追っていければよいかと思います。 ＜会長＞：サブ指標として検討してもよいかもしれません。 ＜委員＞：1－4「高齢者福祉」の指標に関して、在宅のケアマネージャーだけが足りないのではなく、介護職員全体が足りないので、指標にするのなら、もう少し広く設定した方がよいかと思います。 ＜会長＞：1－1「共生社会」に関して、具体的な取り組みを見ると、就労支援に比重があると思います。住宅確保に関する指標もありますが、全体の施策の
--	---

進捗具合を図る指標では、住宅確保の指標でよいか疑問です。

（事務局）：おそらく、担当者レベルでは、新しい取り組みを住宅のチームと一体的に進めなくてはならないということが課題にあるので、もう一度、この指標でいいのか検討します。

＜委員＞：喫緊の課題は重層的支援体制をどのように構築して動かしていくかということだと思います。重層的支援体制が本当に動いているのかどうかを測るような指標でないといけないと思います。

（事務局）：福祉分野では、全体的に分野横断的な支援が必要であるということが課題ですので、施策の置き方や基本事業が適切かどうかを考えていく必要があります。

＜委員＞：移住者の方から課題や、不安だったことなどを調査し、その中で何個減らしましたかという指標があってもよいかと思います。そうすることで、PRにもなり、不安も減るかと思います。

（事務局）：新規の相談件数も大事ですが、定住に繋がり、満足されているかという指標も重要になってくると思います。

＜会長＞：6－6「定住・関係人口」の「魅力度」という指標は、どういう指標なのか。

（事務局）：ブランド総合研究所が発表する魅力度ランキングを用いています。

＜会長＞：行政の指標としては異色という気がしました。

＜委員＞：1－6「こども」の指標に関して、「子育て対象者へアンケート」とありますが、子育て世代以外の人たちの意見は反映されないのでしょうか。

（事務局）：「子ども家庭支援」というキーワードの中では、子育て世代の人たちがどう思っているかを測りたいということで、子育て世代へのアンケートとしています。

＜委員＞：子どもに対する施策について、子育て世代ではないですが、一緒に考え、参画しているという意識は持っています。

	(事務局)：施策全体としては、子育て施策に満足されているか、参画されているかは全市民にも聞きますが、「子ども家庭支援」というキーワードでは、子育て世代の満足度を見ています。 <委員>：多文化共生について、まちづくりアンケートでは、満足度は高いが50歳以上の参画度が低いという状況に対し、外国人と日本人との交流の場を作るということが、取り組みに書かれています。 伊賀市では、色々な取り組みがなされていると思いますが、参加する方たちは、多文化共生に関心がある方たちがほとんどだと思います。関心が薄い方たちが交流の場に参加し、理解度を上げるために、いかにして市が取り組むかが重要です。市内で頑張っている外国人の方たちがいるということを、肯定的にとらえてもらえるような取り組みが必要かと思います。 (事務局)：現行の計画では、「日本人と交流がある外国人の割合」と、「伊賀市に住んでよかったと感じている外国人の割合」という2つの成果指標で、市民の皆さんの多文化共生に関する満足度と参画度を測っています。 <会長>：双方の指標が必要だと思います。交流は一方向ではなくて双方向です。外国人の方々がどれだけ地域に入っていけているかということ測ることと、地域の方がどれだけ受け入れられているかということ測る指標が必要です。 <委員>：施策照会シートの6ー2「多文化共生」の指標「日本人と交流する外国人住民の割合（日常生活の話をする程度）」に関して、（日常生活の話をする程度）と括弧書きする必要はないかと思います。そうではなく、例えば、地域の祭りに一緒に参加できるように声かけをすることや、何か悩みがあれば相談に乗るといった、コミュニケーションに関することならよいですが、ここの日常生活とは何のことを指しているのかが分かりません。 (事務局)：アンケートを取る際にそういった表記になっていると思います。アンケートでの質問について見直す必要があると思います。 <委員>：伊賀市では、どの国からどのくらいの方が来られているかというデータを把握されていると思います。多くの外国人の方がいらっしゃるのので、一緒に協議ができるようなチームづくりができると思います。部局間でデータを共有していただければと思います。
--	---

＜委員＞：6－1「住民自治・市民活動」の指標に関して、「住民自治活動に参加している人の割合」とは、具体的にどういった活動に参加されている人のことですか。

（事務局）：まちづくりアンケートの参画度から取ろうとしているようですので、この指標でいいのか、もう一度担当部局に投げ返したいと思います。

＜委員＞：市民センターそのものがコミュニティを作る場なので、利用しやすいと思っているのか、住民自治協議会の中でアンケートを取ってほしいと思います。

また、地域主体で地域課題の解決に取り組み、その成果がどれぐらい生まれているのか、市民の感覚で実感などが分かれば計画に反映していただきたいと思います。

この計画に間に合わなくても、途中の進行管理の中に入れていけばよいと思います。難しいのであれば住民自治活動への参画度を指標にすることでもよいと思いますが、少し改善する方向で進めていただきたいと思います。

（事務局）：住民自治協議会さんに市からアンケートを取ったりすることができるのかは分かりません。地域の皆さんが住民自治に対して思っていることについて、どのように調査するのかは課題です。

＜委員＞：相談件数も把握されていると思うので、毎年１件でもいいので増やしていければよいかと思います。

＜会長＞：本来、相談件数はサブ指標であるべきで、どれくらいの相談があって、それがどれくらい事業に結びついたかを把握できるようにするためには相談件数を測ることも大事ですが、それがゴールではありません。

＜委員＞：最近では、元気な方々は市民活動センターを頼らず、自分たちで活動することがあります。本来そういった方々が増えていく方がよいので、相談件数を数えていくことがよいのかは疑問です。

市民活動センターで中間支援を充実すると言われていますが、中間支援で何を目指したいのかを測るべきです。例えば、定住自立圏で、伊賀市以外の団体とコラボして何かをやっていく数を測るのか、或いは伊賀市内の中で複数の団体がコラボして何かを生み出していく数を調べるのか、市民

	活動センターとしてやりたいことを測れるように考えていただいたらよいと思います。 (事務局): 補助金などから、コラボした事業が増えた数を調べることができますので、担当課へ提案したいと思います。 <委員>: 中間支援の実態は、補助金の申請の仕方などのセミナーを行っていることが現状ですが、それでよいのかは疑問です。 <委員>: 施策照会シート、3-2「農業」の「担い手」に関して、指標が「関係機関と連携し、地域へ出向き、説明会や意見交換の場に参加した回数」とありますが、これは総合計画に載せないといけない指標なのでしょうか。 計画を作ることが目的なのか、新規就農者の支援が目的なのか、表現の工夫をされてはいかがでしょうか。 <委員>: 3-1「観光」の指標に関して、「観光入込客数(人)」と「リピーター率」しかなく、どういった方々が観光に来られているかや、滞在日数などが分かりません。具体的に見える化できればよいと思います。 3-2「農業」の「担い手」の指標に関して、新たな農地法で農地を取得された方が何人いたかを測ることができればよいかと思います。 <委員>: 参考ですが、他市で新規就農者数を指標にしているところがあります。最初に担当課と話をしたときは、他市では新規就農を増やすことは困難だとおっしゃっていました。 しかし、新規就農者を増やすことが重要な目標であるということで、指標にいただきました。最初は0人でしたが、5年間で8人まで増やすという目標を上げていただき、10人の新規就農者がありました。 目標としては少なくともいいので、確実に1人ずつ増やしていくという方が、分かりやすいと思います。 <委員>: 新規就農者数を指標にすることも重要ですが、事業承継を行っているか、法人化をして集約化をしているかといった件数も指標にしていきたいと思っています。法人化し、農業を辞める人たちの畑を受け取るという事例もあります。総合的に考えた指標として、畑が耕作放棄地にならないということが重要だと思います。 <委員>: 観光に関して、伊賀を訪れる観光客の総数は、今後のまちづくりや活性化
--	---

に繋がっていくため、統計は取った方が良いと思います。

国内と海外の人数やニーズのデータの指標も必要だと思います。

(事務局)：インバウンドや国内の客層のデータも取っていますので、それをここにどう反映するかも含めて、担当課と相談したいと思います。

インバウンドに関しては、奈良市と連携する枠組ができているので、観光客を呼び込むことに今後は力を入れていきたいと思います。

<委員>：伊賀市の観光客はリピート率が年々減少しているという調査が出ていると思います。

私は石垣島でマーケット調査をやってきましたが、石垣島ではどうやってリピーター率を上げたかという、来られたお客様がどういう興味があって来られたのか、そして、ミスマッチの原因が何であったかということまで細分化して調査しました。

計画の中で、観光に力を入れて推し進めていくという施策の表記があればよいと思います。

<委員>：観光に関して、今までも入込み客数やリピーター数、通行量といった大きなデータは、ずっと取られていると思います。ただ、来年には忍者回廊という、市を挙げた観光事業が行われるので、もう少し具体的な取り組みについて、成果を示すような細かい数字があればよいと思います。

<会長>：3－5「商工業・産業立地」の成果指標「市内総生産額」に関して、最終的に市内総生産額をいくらにするかが目標になるとは思いますが、基本施策がどれぐらい展開できているかを測る成果指標として適切でないと思います。

<委員>：3－4「市街地」の指標「中心市街地の歩行者等通行量」に関して、現在、伊賀市中心市街地活性化基本計画を見直してしまして、デジタル技術を用いて人流を測定し、指標としたのですが、総務省から一桁多いのではないかと指摘を受けました。まだ誤差が大きいので、誤差を修正するために年に1回調査をし、調整しながらやっていかないとはいけません。

(事務局)：中心市街地活性化基本計画も今年度末を目標に今作っており、国とも相談をしている状況ですので、中心市街地活性化基本計画とも見比べながら総合計画の指標を考えていきたいと思います。

＜委員＞：施策照会シートの６－３「文化・芸術」の指標で、「文化芸術を鑑賞した人の割合」とありますが、これは受け身だと思います。文化・芸術を鑑賞するだけでなく、クリエイティブしていく人たちもいるはずなので、「文化芸術活動に関わった人」としていただきたいと思います。

＜会長＞：今日はここまででよろしいでしょうか。では、「その他」について、事務局から説明をお願いします。

－ 事務局 事項４「その他」説明 －

（事務局）：こども若者ワークショップを１１月２３日に開催します。キャッチコピーの募集をしております。応募いただいたキャッチコピーは、子ども計画や総合計画の目指すべき姿として参考にさせていただきます。

＜会長＞：そのほか、皆さんからご質問ありましたらお願いいたします。

＜委員＞：それぞれの課を越えて取り組むことが重要ですが、今回の会議では各分野のポイントだけの話になってしまい、全体が見えませんでした。

まちづくりアンケートを見ていて、参画度を上げたいと思いました。全ての施策に市民が参画し、意思表示をしてくださるということを目的に、この計画を作っていきたいという思いが強くなります。

学校教育に関しても、参画度は、事業に参加した人のアンケートからだと思います。そうすると、事業に参加できなかったりしなかった人の満足度や理解度は分からないと思います

（事務局）：それぞれ施策の満足度と参画度がどうなったかは、それぞれの施策で見なければなりませんが、伊賀市全体のまちづくりが、満足を得られているのか、参画いただいているかということについては、全体の平均を示すことが必要だと思います。全体の平均がこういった動きになっているのかは我々の方で把握していますが、皆さんにお示しできてないので、振り返りの際にそれをお示しできたらと思います。それを次の計画に載せていくことができればよいと思います。

伊賀市が掲げる協働によるまちづくりというテーマからいうと、参画度を上げていくということがまちづくりの目標です。

＜会長＞：進行を事務局にお返ししたいと思います。

（事務局）：大変お疲れ様でした。熱心にご議論いただき、ありがとうございました。

	それでは、本日の審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。
--	--------------------------------------